



HCAP 16期 活動報告書

P.2 HCAPとは

P.3 代表挨拶

P.4 協賛・後援・協力

P.5 ハーバードカンファレンス

P.9 東京カンファレンス

P.15 総括

P.16 会計

1. HCAPとは

HCAP (Harvard College in Asia Program) とは、ハーバード大学に本部を、アジアの9つの地域のトップレベル大学に支部を置く、学生主体の団体です。学生間でアメリカとアジア各国の架け橋となるような関係を構築するため、学術・文化・交流を軸に学生会議や交流活動を行う「カンファレンス」を開催しております。その日本支部である HCAP東京大学運営委員会は、東京大学公認の学生団体です。「ハーバードカンファレンス」（毎年1月にハーバード大学にて行われるカンファレンス）への参加と「東京カンファレンス」（例年3月に日本にて行われるカンファレンス）の主催を二本柱として活動しております。昨年度と同様に、今年度も新型コロナウイルス感染症の長引く影響により、「ハーバードカンファレンス」はオンラインで1週間、「東京カンファレンス」は「Tokyo Seoul Conference」としてHCAP ソウル支部と共同で1日分のオンライン企画を運営しました。



2. 代表挨拶

2022年2月19日から20日にかけて、HCAP東京大学運営委員会16期（以下16期）は Online Exchange Conference 2022 を開催致しました。新型コロナウイルスが依然として猛威を振るい、多くの試練に直面しながらも無事にカンファレンスを開催できたのは、ひとえに日頃よりご支援を賜っている個人・団体・企業の皆様のお力添えによるものです。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

社会が新型コロナウイルスから立ち直るかのように見えた中、16期の一年は希望に始まりました。一年が瞬く間に過ぎていくことは自覚していながらも、一年という月日が状況を改善するには充分だろうという期待。しかしその期待も虚しく、開催の直前になってハーバード/東京カンファレンスのオンライン化を決断せざるを得ませんでした。積み上げては崩されることを破壊的な意味で経験してきた我々は、一体何のためにカンファレンスを行うのか。この単純で深い問いを再び突きつけられることになりました。そこで、16期の理念に立ち返ると次のような一節がありました。

我々は自由と不自由の狭間で、無意識に規定されていた制約から心を開放し、時代の荒波の中で自ら進むべき道の明かりを自ら灯し続ける。

「自由」とは我々に与えられた真っ白なキャンバス。「不自由」そして「無意識に規定されていた制約」とは、所与のものと願ってやまなかった対面の機会でした。そんな厳しい状況の中でも我々がやるべきことは、自ら進むべき道の明かりを自ら灯し続けることであると過去の自分たちが教えてくれました。

すると、16期は「自己表現の場」という意味をカンファレンスに見出していきました。自己開示をし合った仲間とだからこそ表現できる、自己の新しい可能性を検証する場です。各々の自己表現がオーディエンスと共鳴した時に生まれるものを知りたくて、オンラインでどこまで共有できるのかを知りたくて夢中で走り続けました。そして様々な困難を乗り越えた先にたどり着いたハーバード/東京カンファレンス。一つ一つの要素が全体として調和し、感動は物理的な距離を超えて共有できました。美しい時間を紡いでいくことができたと確信しています。

この一年の経験や学びをどのように内面化し、自分自身をどのように塗り替えていくかは16期のメンバーそれぞれ次第です。それでも、変化を恐れず現状を突き抜けていくことは、全員が強い信念を持って貫き通すと覚悟していることであります。まだ未熟者ではありますが、それぞれが選択した道で社会を先導していけるように、研鑽を積んでいきます。その確かな一歩を踏み出すことができたことが、多くの方々にご支援いただいた意味だと思います。

末筆にはなりますが、皆様のご支援があってこの一年がとても充実したものになりました。改めて心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。そしてHCAPという舞台が、時代に合わせて変化しながらも、引き続き最高峰の成長の場として発展していくことを願い、筆を擱かせていただきます。

HCAP 東京大学運営委員会 16期代表
ブラート アルヴィン

3. 協賛・後援・協力（敬称略）

協賛

株式会社ベネッセコーポレーション Route H

株式会社ベネッセコーポレーション Global Learning Center

顧問

東京大学大学院総合文化研究科 教養学部 教授 松田恭幸

後援

在アメリカ合衆国日本国大使館

HCAP 東京カンファレンス 2022

在アメリカ合衆国日本国大使館 教育・人物交流担当官 Grace Choi

在アメリカ合衆国日本国大使館 三橋のゆり

高校生企画

株式会社ベネッセコーポレーション 英語・グローバル事業開発部
グローバルラーニング課 Route H 責任者 尾澤章浩

「Urban Planning」企画

ショクバイ株式会社 代表取締役/ 長野県小布施町 総合政策推進専門官 林志洋

「Well-being」企画

楽天グループ株式会社 常務執行役員 CDO グローバルデータ統括部 ディレクター 北川拓也

4. ハーバードカンファレンス

4-1 概要

主催：HCAP 本部

日程：2022年 1月16日（日）～1月23日（日）（本紙では全て日本時間で記載）

参加：HCAP 本部、HCAP 東京支部、HCAP ソウル支部、HCAP バンコク支部、HCAP 香港支部、HCAP イスタンブール支部、HCAP ムンバイ支部、HCAP シンガポール支部、HCAP 台北支部、HCAP バンコク支部

形式：オンライン（ZOOM を使用）

4-2 プログラム詳細報告

【学術企画統括】

本年度は“Interdisciplinary Innovation: New Ways to Approach the New World”というテーマのもと開催された。パンデミックによってもたらされた変化に限らず、これから未曾有の世界に挑み、向き合う姿勢を学ぶことを目的に、East Asian Studies、Arts、Healthcare and Innovation、Interdisciplinary、Environment and Sustainabilityという5つのセッションを通して多岐にわたる分野で、ハーバード大学の教授陣をはじめとした最前線を走る方々からお話を伺うことができた。全てパネルディスカッションの形式で行われ、登壇者同士の活発な意見の交換を聞くことができた。HCAP Tokyoのメンバーも自分の関心領域と引きつけて積極的に質問し学びを深めた。



【East Asian Studies Panel】

東アジアを専門に研究されている先生の講義は、日本人の私たちには身近に感じることであった。一方で、アメリカをはじめとした欧米諸国がどのように私たちの文化を捉えているかについて相対化するきっかけとなった。東アジアの文化の多くは、ステレオタイプ化され誤解を伴って理解されているという。自分達にとっての「当たり前」がそうでない世界を知り、異なる見方を得ることにこそ、国際交流の意義を大きく感じる事ができた。

【Arts Panel】

技術革新やコロナ禍によってダイナミックに変化している美術のあり方を踏まえ、学校教育における美術の大切さについて論じられていた。美術を教える教員の数が増少している中、AI（人工知能）が子供たちの創造性を引き出すことは可能かについて議論が盛り上がった。技術との付き合い方を考えた上で、未来の教育に組み込んでいこうとする姿勢が印象的だった。



【文化企画総括】

タレントショーをはじめとした文化企画では、各大学それぞれが事前に作成した動画を鑑賞した。各国の文化や各支部メンバーの個性が詰まった力作の動画の数々に、大いに盛り上がりZOOMのチャット欄はコメントに溢れかえっていた。

【タレントショー】

タレントショーとは、各国自慢のパフォーマンスを動画で披露する企画であり、各支部メンバーが全員出演することが条件である。各国が伝統的な踊りや歌、芸術などで観客を魅了する中、我々は日本特有のヲタ芸を全員で踊り上げた。10分の動画の中で、コミカルな物語に乗せてヲタ芸を披露したが、ストーリー性に加えて見た目のインパクトも大きく、反響はとても大きかった。



【ハーバードキャンパスツアー】

ハーバード生2名によるキャンパス紹介動画を鑑賞した。二人称視点の没入感のある動画で、在校生だからこそ知っている大学に隠された秘密などがコミカルに紹介されていた。学生の日常生活についても垣間見ることができ、来るべきハーバード訪問への期待が一層高まった時間であった。

【交流企画総括】

ブレイクアウトルームを用いた企画と全体で行う企画がバランスよく配合されていたため、ハーバード生と密接にコミュニケーションをとりながらも、同時に他大学のメンバーとも親睦を深めることができた。特にソウル支部のメンバーとは交流企画を通してより仲を深めることができ、共同開催をした東京カンファレンスでの円滑で充実したカンファレンス開催に繋げることができた。

【Scavenger Hunt】

全体に対して謎解きクイズが出題され、各大学対抗で問題を解くスピードを競った。ハーバード生も1人ずつ各大学のチームに加わって参加し、コミュニケーションを取りながらヒントなどを出してくれたが、問題が極めて難解であり答えに辿り着くまでには多くの努力を要した。しかし、互いの長所を生かしながら答えに辿り着くプロセスは、相互理解を深めることに繋がった。

【HCAPx】

「広める価値のあるアイデア」をプレゼンテーションを通して伝えるTED(x) Talk をHCAPで行うのがHCAPx である。各国のメンバーが価値あるアイデアを動画にまとめた。我々は少子高齢化・人口減少社会に直面する日本の先端的なまちづくり例を紹介した。「縮充」、つまり縮小させながらも充実させていくことを肯定する価値観は、多くの学生に新鮮に映ったようだった。



【Pageant】

この企画では、各大学からそれぞれ2名の代表者がそれぞれの特技を動画の中で披露し、その中で最も輝いたメンバー3人が投票で「Mr. / Miss HCAP」として選出される。我々の動画では、まず2人が日本のポップカルチャーとしてギャルに変装し、原宿を練り歩いた。その流れでカラオケでの歌や日本文化としての茶道を特技として披露した。惜しくも「Mr. / Miss HCAP」には届かなかったが、参加者の印象には残ったようである。



5. 東京カンファレンス

この報告書の冒頭でも述べたように、例年はハーバード生を東京に招いて対面で開催されていた東京カンファレンスですが、2021年度は新型コロナウイルスの流行による来日時の隔離措置が障壁となり、オンラインでの開催となりました。結果2020年度同様、HCAP ソウル支部と共同で一つのオンラインカンファレンスを開催することになりました。本来ならば深い交流が生まれないアジアの他国の支部とカンファレンスを創り上げることができたことは良い経験になりました。ここでは、HCAP Tokyo の企画に焦点を当てていきたいと思います。

5-1 概要

主催：HCAP 東京支部、HCAP ソウル支部

日程：2022年 2月19日（土）～1月20日（日）

参加：HCAP 本部、HCAP 東京支部、HCAP ソウル支部

形式：オンライン（ZOOM を使用）



5-2 プログラム詳細報告

HCAP TV

【日時】 2/19 23:30-24:30

【企画目的】

- ・ 日本特有のバラエティ番組の雰囲気を経験してもらう
- ・ 企画を通して日本の文化や習慣について、来日した際に実践できる生きた知識を身につけてもらう
- ・ チームを通じた密接なコミュニケーションを図り、相互理解を深めるきっかけを作る

【企画内容】

企画全体で一つのテレビ番組を模して行った。「百均クイズ」、「漢字クイズ」、「東京紹介」の3つのコーナーを設けた。百均クイズでは、事前にソウル生、ハーバード生に我々がセレクトした商品を購入して送った。どのような用途かを当ててもらおうクイズや、百均の商品であるか否かを考えてもらおうクイズを出題し、ブレイクアウトルームで議論をしてもらった。漢字クイズでは、興味深い漢字や熟語の意味をピックアップし、選択肢式のクイズとして出題した。東京紹介動画では、HCAP Tokyoのメンバーが浅草を紹介し、その中で日本の習慣や食事のマナーについて出題した。

【統括】

オンラインの制約の中で、将来日本に来日した際に必要な知識を共有できないかと考えた。そこで日本のバラエティ番組の豊かさに注目し、日本の文化や独自性を出汁にして、自分たちだけの番組を作ろうと様々な企画に挑戦した。日本 / 東京の文化や様子を記憶に残る形で伝えることができたと考えている。また、結果的にカンファレンスに参加していた全員を巻き込み、能動的なコミュニケーションを行う場を作ることができた。



Well-being

【日時】 2/19 9:30-10:30

【企画目的】

- ・学際的かつコロナ禍においてより重要性が明らかになった「ウェルビーイング」の概念を通して、自分にとっての幸せについて考える
- ・自分にとっての幸せとWorld Happiness Reportの幸せの項目を比べる

【企画内容】

企画はレクチャーとディスカッションを通して「ウェルビーイング」について学ぶと同時に各国の幸せに関する理解を深めるものとなった。講師として、楽天株式会社の元執行役員であり、HCAP Tokyoの創設者である北川拓也様をお招きした。前半は「ウェルビーイング」と幸せとコロナというトピックについて北川様からプレゼンテーションをしていただいた。プレゼンテーションの後には、World Happiness Reportの幸せの項目が西欧的な価値観のみを包摂しているかなど、活発に議論が行われた。後半はグループに分かれて日本、韓国、米国のWorld Happiness Reportの順位と点数を比較する議論を行った。

【総括】

企画を通して、各国の幸せのあり方の相違点と共通点を共有することができた。各国の傾向をステレオタイプ化した浅い比較をするのではなく、「自分はどう思うのか」に深く根ざした対話をしてもらう場をデザインすることができた。また、「人は指標をつくれればそれを改善するように動くから、『ウェルビーイング』を計測可能なものにすることで自ずと改善されていく」という北川様の発言が印象に残っている。幸せの価値観に共通項がそもそも存在するのかということを探りながら、手応えと難しさを同時に実感した時間であった。また、北川様が「時間と空間を共有する」ことの大切さを説かれていたことで、オンラインという活動制約を改めて悔やむと同時に、コロナ禍収束後にまたHCAPメンバーと何かイベントをしたいという欲に駆られた。



Urban Planning

【日時】 2/20 12:00-13:00

【企画目的】

- ・分野横断的なテーマである「まちづくり」を通して未来の社会のあり方を議論する
- ・人口減少や高齢化に直面した課題先進国である日本が、どのように課題に対処しているのかを知り世界に発信する
- ・「小布施町」を例にまちづくりが直面している課題を認識し、理論的・実践的なアプローチを考える

【企画内容】

「イノベーションの社会実装」をテーマにスタートアップの起業をしつつ、長野県小布施町で総合政策推進専門官としてまちづくりに携わっていらっしゃる林志洋様をお招きした。様々な場に機会を求めてきた林様ご自身の経験を伺いつつ、少子高齢化に直面する日本社会、ないし先進国社会の中で我々がいかにして未来社会を形作っていくかを小布施町の例を引き合いに出しながら議論した。日米比較などを交えつつ、グローバルとローカルの視点を行き来して活発に意見が出された。

【総括】

“Think globally. Act locally.”という明確なメッセージを強く打ち出した林様のお話は、小布施町でのご自身の豊富な経験に基づいた胸に響くものであった。川上と川下の両方の立場から行動・実践してこられたからこそお話に説得力が生まれ、ハーバード生やソウルの学生にとっても身近な社会に引きつけながら考えることができる機会になっていたようであった。個人的にも、まちづくり、公共政策、国際関係といった複数の専門性を掛け合わせて自らにしかできない仕事をされている林様の輝かしい姿に憧憬の念を抱き、キャリアパスを改めて考える契機となった。



Anime Dubbing

【日時】 2/20 13:45-15:15

【企画目的】

- ・日本のアニメ文化に触れるだけでなく、実践を通して能動的にその一部になる体験をする
- ・表現者としての新しい自分の一面を発見してもらう
- ・他者の新しい一面を発見し、相互理解を深める

【企画内容】

日本を代表するアニメの名シーンを題材とし、グループに分かれて与えられた無音声のシーンの内容を創作しアフレコしてもらった。はじめに、日本のアニメに関するブリーフィングを行った後、グループに分かれブレイクアウトルームに移動した。それぞれのグループにはプロデューサーと役者を置き、創作と練習を集中的に行った。メインルームに戻った後は、発表会が開催された。各チームが創作アフレコを披露し、プロデューサーが内容に込めた狙いや意図をプレゼンテーションする時間を設けた。

【総括】

オンラインで体験できることの限界を突破しようとした企画であり、東京カンファレンスを締めくくるに相応しい、最も盛り上がった時間となった。映像だけのアニメ素材に対して、それぞれがユニークでウィットに富んだ解釈をして魂を吹き込んでくれた。短い準備時間であったにも拘らず、カンファレンス中の出来事を巧に反映したものや、日本文化への理解に富んだものが多く、発表会では笑顔と拍手が絶えることはなかった。価値観や文化の違う者同士であっても、同じ表現に対して笑いを共有し通じ合えることを確信した。



高校生企画

【主催】Route H, HCAP東京大学運営委員会

【参加】HCAP Harvard 約10名, 日本の高校生約50名

【日時】3月26日（土） 10:00-12:30

【形式】オンライン（ZOOMを使用）

【企画目的】

- ・コロナ禍で、留学や課外活動の機会が阻まれ、将来像を描きにくくなっている高校生に対し、海外大学の学生や共に励まし合う仲間との交流の機会を提供すること
- ・海外大学進学に興味を持つ高校生に、海外大学受験のプロセスやハーバード大学での学生生活の様子を知ってもらうこと
- ・より具体的な高校生の関心に合わせ、受験から大学生活に関わる疑問点や不安点を解消し、海外大学への挑戦を後押しすること
- ・高校生と大学生が密に交流して互いに気づきをもたらすとともに、対話を通じて自己を相対化し、視野を広げること

【企画内容】

ご協賛頂いているRouteH様のお力を借りて、海外大学進学に興味を持っている高校生約50人を集めて、オンラインで約3時間の交流企画を行った。

まず、ハーバード大学の学生3名が、学生生活についてのプレゼンテーションを約20分間行った。プレゼンでは、どのような勉強・課外活動をしているかやハーバード大学へ入学してよかったと思うことなどを共有してもらった。次に、ハーバード大学の学生3名とHCAPTokyoからの司会によるパネルディスカッションを約40分間行った。ここでは司会が、ハーバード大学での学生生活についてパネラー達にテーマ別に様々な質問をした。主なテーマは、大学受験や大学での授業の内容・将来の目標などについてであった。休憩を挟んだ後、ブレイクアウトルームに分かれてフリートークセッションを約30分ずつ計2回、メンバーを代えて行った。ここでは、高校生数名と東大生・ハーバード生1名程度のグループを構成し、高校生からの質問を受け付けた。執筆者がいたグループでは、受験の際に気をつけたことや、ハーバード生が高校生の時に取り組んでいたことについて、高校生が質問していた。

【総括】

元々対面での開催を想定していたこともあり、準備段階では苦労する部分も多かったが、高校生が積極的にハーバード生に質問して、目を輝かせている様子を見ることができ、企画の目的は十分に達成できたと感じた。HCAP Tokyo側としても、ハーバード生の大学での様子を異なる角度から解像度高く知ることができたと共に、高校生と交流することができ、大変密度の高い時間を過ごすことができたと感じている。

最後になりましたが、準備段階から何度もミーティングにご出席下さり、適切な助言を賜るなど、企画の成功にご尽力頂いたRoute H様並びに尾澤様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

6. 総括

「昨年是对面で行うことができませんでしたが、来年こそは、東京カンファレンス是对面で開催できるのではないか。」

HCAP Tokyoの説明会で聞いたこの言葉は、結末としては、現実とはなりませんでした。とはいえ、今年のHCAP Tokyoは対面で東京カンファレンスが行えるという希望のもと活動してきました。最後の最後、2021年1月頃まで、日本政府の検疫制限が経済活動の活発化という目的のため緩和されることを祈り続けていました。祈るだけではなく、私たちは、ハーバード生との交流を最大化させるために、夏頃から構想を練っていたカンファレンスの内容に関して何度も話し合いを重ねました。

しかし、一向に緩和されない日本政府の検疫制限のみならず、大学側の柔軟とはいえない渡航に際しての対応からなる問題に直面するなか、「これ以上走り続けることはできない」というポイントに何度も私たちは立たされました。ギリギリの決断となりましたが、「多分、オンラインになるよね」となり、HCAP Tokyo一同で落ち込んだ後の回復、そして、そこからの行動力は、1年間を通して学んできたイベント運営のスキルや一同の絆の強さの証であったと思います。

昨年、難航したと聞いていたソウル支部とのカンファレンスの設計。どのように接したら東京支部にとっても、ソウル支部にとっても最適なカンファレンス設計ができるのか、HCAP Tokyoのメンバーで何度も会議の前に交渉の仕方について話し合ったことを今でも思い出します。実際共同でホストすることになったソウル支部は、“thorough” “generous”という言葉が当てはまる素晴らしいチームでした。ハーバード生と交流することができたことはもちろんですが、今年の東京カンファレンスの大きな収穫は、HCAPの東京支部と梨花女子大学生であるソウル支部との連携ではないでしょうか。

カンファレンスは、オンラインだからこそ共有できる学びや愉しみに溢れていました。ハーバード生とソウル生との考え方や興味の違いはもちろんのこと、コロナ禍という世界がストップをかけられたような状況を乗り越える同世代として、自らのWell-beingとは何かを考え続けていることや自分の地域をそして世界をよくしていきたいという公共性を共有していることに感銘を受けました。

最後になりますが、このようなご時世の中、カンファレンスを開催できたのは、不安定な中でも私たちの活動をご理解、ご支援いただいた皆様のおかげです。厚くお礼申し上げます。これからもHCAP東京カンファレンスでの学びを生かし、次世代に繋げると言う決意のもと、筆を擱かせていただきます。

HCAP 東京大学運営委員会 16期副代表
三好陽子

7. 会計

支出

項目	金額（円）
雑費	8,547円
ハーバードカンファレンス	
動画制作 Talent-Show	11,498円
動画制作 Pageant	8,890円
東京カンファレンス	
国際交流用パーカー	97,180円
HCAP TV	16,067円
高校生企画	4,400円
新歓活動	13,108円
計	159,690円

収入

項目	金額（円）
ベネッセコーポレーション	160,000円
計	160,000円

※ 15期からの繰越金は 240,752円でした。